

# かわにし

議会だより

第129号

2017

4.15



## 思い出の 自撮り

小松小学校卒業式 P24に関連記事

### 政策検証

- 「森のマルシェ」厳しい評価 … 2
- 高校生までの医療費無料化 …… 6
- 一般質問 5議員が町政をたず … 16
- 特集 議会活性化、ここが違う … 28
- 議会だより7年連続入賞 …… 33



3月23日、定例会最終日に、27年度検証報告書が加藤議長から原田町長に手渡された。  
議会基本条例に規定した、開かれた議会のテーマのもと、町民との意見交換会をもとに、政策提言後の町行政の施策の分析と討論を行った。これで「政策提言→検証→評価」のサイクルが終了することになる。また、次年度サイクルも平行して開始

しており、議会側には常に提言・検証・評価が要求される。議会本来のチェック機能が今まで以上に強化されることになる。  
3度目の政策検証となるが、提言後1年の到達度を評価するので、施策が長期間に及ぶものはどうしても評価が低くなる。スピード感がなければ評価が上がらない。

# 6次拠点「森のマルシェ」に厳しい評価

## 27年度政策提言から1年を検証



加藤議長から原田町長に報告書が手渡された

厳しい評価

検証基準は、議会基本条例第8条に明記された。  
①政策を必要とする背景  
②提案に至るまでの経緯  
③町民参加の実施の有無及びその内容  
④ほかの自治体の類似する政策との比較検討  
⑤総合計画における根拠または位置づけ  
⑥財政  
⑦将来にわたる政策など

どの効果およびコスト以上の7項目を「ものさし」としている。担当課から政策提言・回答後1年の施策実施状況を詳細に聴き取り、その後各議員が到達度を5段階で評価する。それぞれの評価基準は表のとおりである。  
全議員の平均点がその項目の評価となる。検証評価のシステムは、オリジナルだけに、

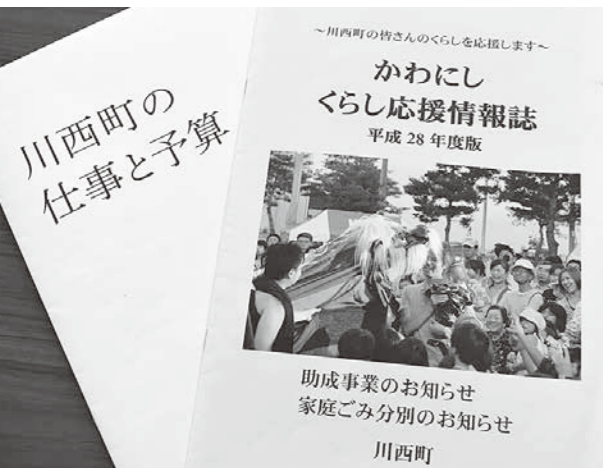
十分とはいえない側面もある。提言後1年間の到達度を評価するので、長期にわたる施策は実績が出にくく、一般的に評価が辛くなる傾向がある。検証評価システム自体を改善する必要もある。  
なお、検証評価の基準日は、施策が進捗していることから1月末日とした。

政策検証評価の基準	
A	必要な取り組みを着実に実施、その結果、目標達成ないしほぼ達成
B	必要な取り組みを着実に実施、その結果、達成に向けて具体的成果が見られる
C	必要な取り組みをおおむね実施、その結果、一定の成果が見られ始めている
D	必要な取り組みに着手しているものの、目標達成までには、なお課題が残されている
E	取り組みに向けた検討に着手、目標達成に向けた具体的展開が今後の課題である

### 1 提言

#### 評価 定住促進対策

## 情報誌発行を評価 継続を望む



「かわにし暮らし応援情報誌」の充実を

(1)「若者未来塾交付金事業」のさらなる充実を図ることと(2)若者の出合いの場づくりに取り組むこと―はC評価となった。  
今後まちづくりマイスター認定者が活躍できる工夫や交付金事業を担う団体のさらなる育成が望まれる。  
新規事業の2分の3

成人式は出合いの場の創出で、評価できる。町民の理解とネーミングの工夫が必要である。  
(3)子育て支援の一つとして、「学力日本一」かわにし」を目指すこと  
(4)町民生活応援ガイドブック(仮称)を作成すること―はともにC評価となった。  
放課後学習指導員や学習支援アドバイザーなど多様な取り組みは評価できる。今後は本町の特色を生かし、読解力を高めるため読書教育の充実を求める。  
28年度の「かわにし暮らし応援情報誌」の全戸配布は評価できる。先進事例を参考に、より利便性のあるものとするべき。



# 多機能化・複合化図れ



複合化で、便利な窓口に = 役場庁舎

## 提言 2

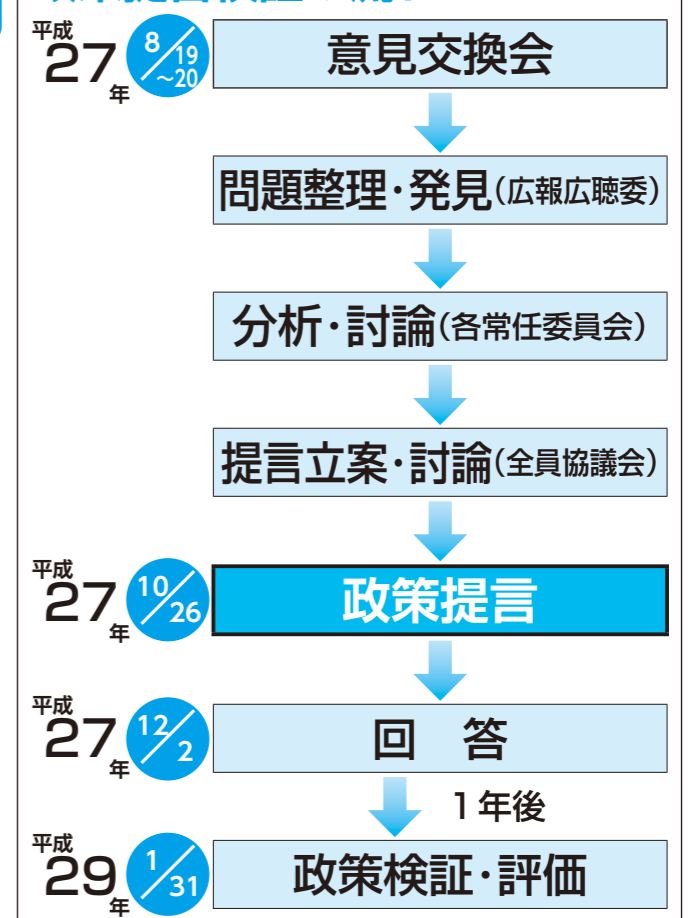
### 新庁舎も複合化図れ

(1)施設総数の圧縮と耐震補強可能施設を明示すること―(2)施設重視から機能優先への転換可能施設と多機能化・複合化の実施計画を明示すること―はともにC評価となった。

耐震診断を踏まえた施設整備計画の「10年間の主な施設の投資計画」は一定評価できる。町有施設総数の圧縮は今後の重要な課題である。

複合化を視野に入れた川西診療所・小松保育所の整備計画は評価できる。32年度までの庁舎建設も複合化を前提とすべき。

### 政策提言検証の流れ(平成27年度)



### 学校跡地利用地域の意見集約を

(3)空家となる町有施設の再利用を明示すること―(4)再生のための町有施設の更新費用の試算(維持管理費を含む)と財源確保策並びに返済計画を明示すること―はともにC評価となった。

売却など検討されていることは評価できる。今後予定される、高山小・東沢小の跡地利用は地域の意見を集約し方向性を確立すること。

「町公共施設等総合管理計画」では、町有の埋蔵文化財資料展示館の移設、同施設の取壊し、旧教員住宅の設計された。多額の経費

売却など検討されていることは評価できる。今後予定される、高山小・東沢小の跡地利用は地域の意見を集約し方向性を確立すること。

計画策定にあたっては各方面からの意見を吸い上げたことは評価できる。今後も施設整備にあたっては、幅広い階層・団体を中心とした町民参加とすること。

# 「森のマルシェ」企画力・PR不足



「森のマルシェ」EM菌を使った野菜栽培講習会

## 提言 3

(1)高い付加価値を持った商品作りの指導を行い、的確な販売戦略を立てること―はD評価となった。

早急に特産品づくりが必要だ。栽培誘導も強力に進めるべきである。販売戦略を明確にする必要がある。

(3)販売・加工のみならず、町民が集える場の確保と事業展開を図ること―(4)観光や公共交通の要所となるよう位置づけること―はD評価となった。

多くの方々に足を運んでもらう企画やPR

が必要である。地元素材を使ったメニューも必要である。

ダリヤ園との連携は評価できる。今後は、置賜地域の観光施設との連携を広げるべきである。

(2)置賜農業高校や意欲あるグループ・個人との連携重視―はC評価となった。

置賜農業高校の活動は評価できる。地域の期待も高く、地域との一層の連携を進めてほしい。グループ・個人との連携は少なく、今後の課題である。

## 提言 4

### 提言 病院周辺の土地利用スピード感を持って推進せよ

### 提言 町が主体となつて着手を

(1)早急に全体計画を示し、それに沿った実施計画を策定すること―(2)町が主体となつて着手すること―はともにC評価となった。

土地利用の概要が示され、地元住民への説明もなされ評価できる。さらにスピード感を持って進めてほしい。重要事業であるため町民全体への説明が必要である。

また、地域住民と連携し、町が積極的に関わり、民間活力の導入も考えながら早期に着手すること。



東京での移住定住説明会 = ふるさと回帰フェア

### 提言 若者定着促進を

(3)若者定着に結びつく方策を実施すること―はD評価となった。

若者が定着できるよう、将来を展望した医療、福祉、居住、憩いの場、商業および職場などが整えられた開発を望む。



# 高校生までの医療費無料化

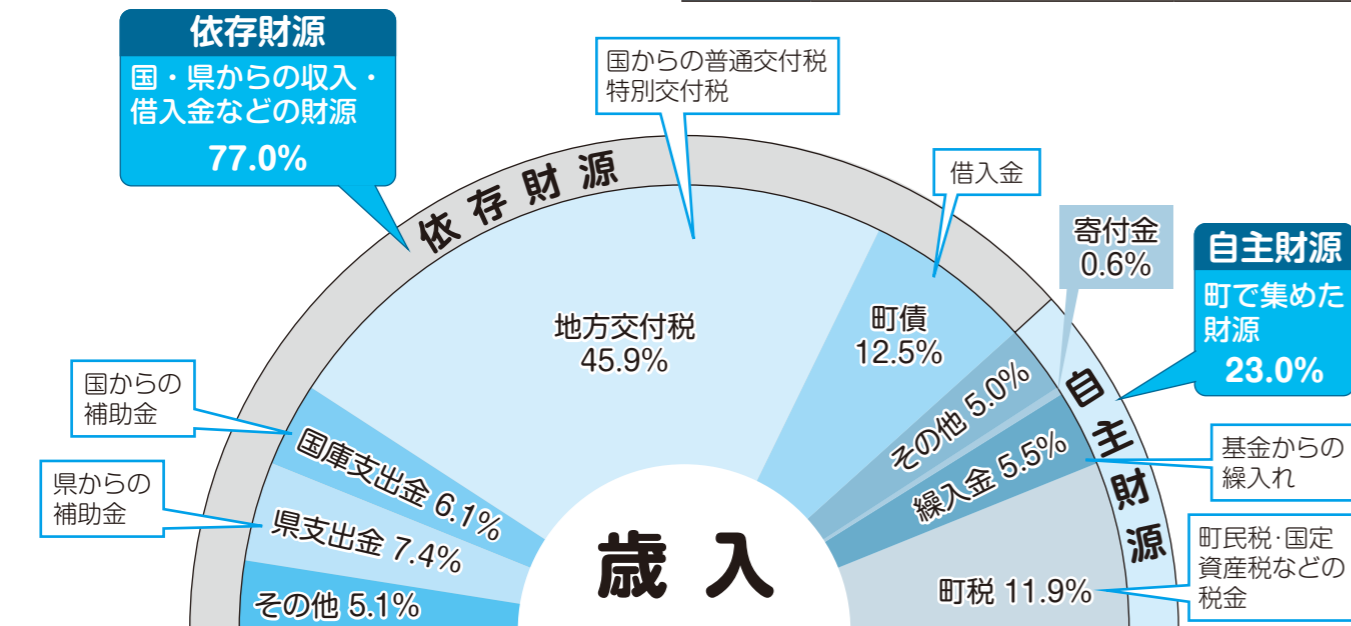
29年度予算  
前年度比1.4%減

3月  
定例会

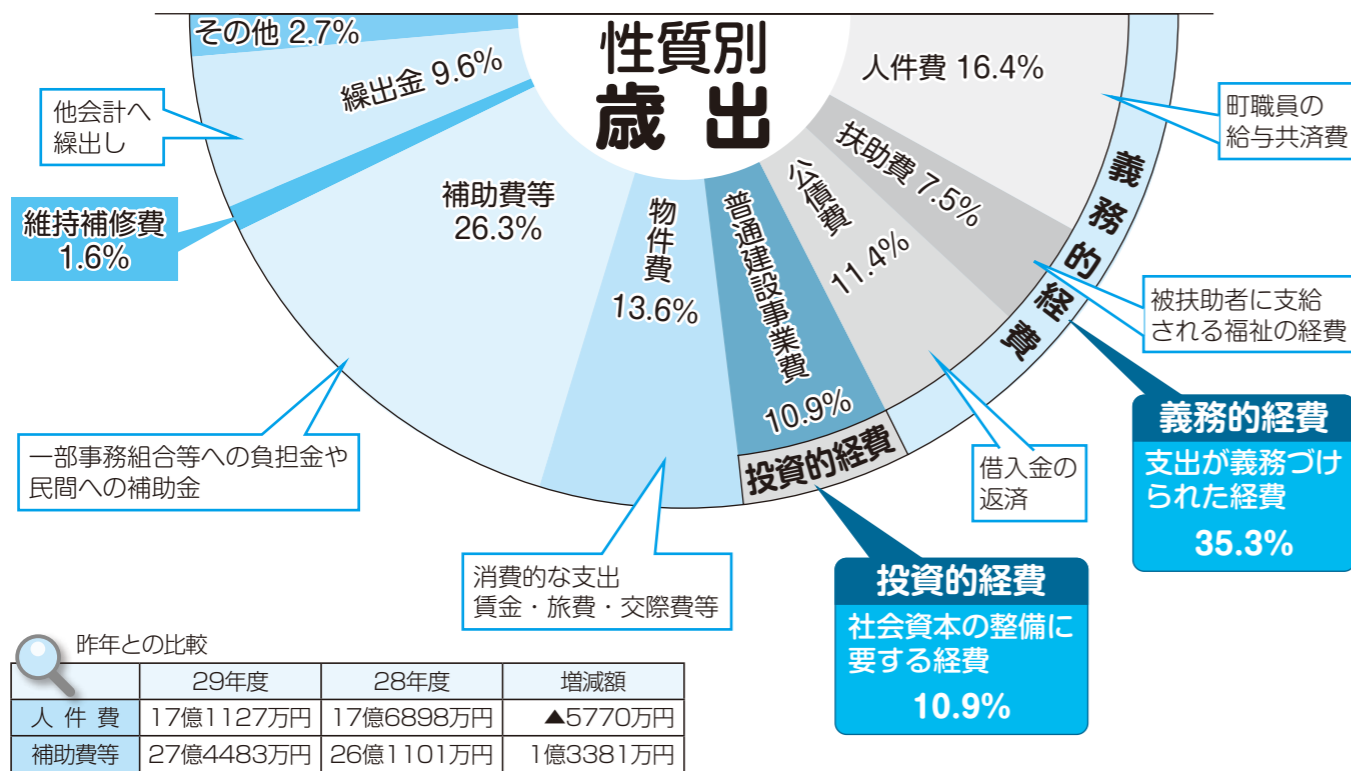
## 予算の内訳

昨年との比較

	29年度	28年度	増減額
地方交付税	47億9000万円	46億6000万円	1億3000万円
町債(借入金)	12億9870万円	14億1360万円	▲1億1490万円



一般会計 104億3200万円



昨年との比較

	29年度	28年度	増減額
人件費	17億1127万円	17億6898万円	▲5770万円
補助費等	27億4483万円	26億1101万円	1億3381万円

### 平成29年度一般会計予算の特徴

- ①当初予算で前年度対比1.4%減だが、3年連続の100億円超え。
- ②投資的経費は2億円余減の11億3537万円。借入金は12億9870万円。
- ③主な事業は、庁舎建設の調査、メディカルタウン構想調査、高校生までの医療費無料化。

平成29年度の一般会計予算の総額は、前年度対比1.4%減だが104億3200万円、大型予算の編成となった。

町長は施政方針で、かわにし未来ビジョン(第5次総合計画)、総合戦略の具現化を目指すとし、主要プロジェクトに取り組みとした。公立置賜病院周辺の開発「メディカルタウン構想」の具現化を

はじめ、引き続きパークゴルフ場の造成、虚空蔵山西線道路改良を実施する。

特に、国が29年度に創設した「役場機能緊急保全事業」に取り組みむこととし、できるだけ早く基本構想の策定を行うとした。

また、今までも力を入れてきた若者の定着化、子育て支援、移住定住を促進するため、ライフプラン支援や、

これまで中学生までだった医療費無料化を高校生まで拡大するほか、新規に三世同居住宅建設事業を行う。

さらに、町単独補助金はシーリング的なカットは行わず、前年度同額の補助を基本としながらも、プレミアム商品券発行補助、小学校再編に係る閉校記念事業補助、空家利活用補助等の予算措置を行ったとしている。

議会では、本会議で総括質疑を行い、予算特別委員会での詳細な説明を受けて徹底した議論を重ね、慎重に審議を行った。

議会からは、大規模投資的経費が続くことにより、借入金の増加や繰入金の増加による財政の悪化を危惧する質疑が相次いだ。

### 鍵は財政運営

# 大規模事業に着手 新庁舎建設・病院周辺開発

## 3月定例会のあらまし

3月定例会が3月6日から23日までの18日間の会期で開催された。

第1日目に、人事13件、県市町村退職手当組合規約の変更1件を審議した後、条例2件の審査を常任委員会に付託、条例5件、本年度補正予算3件、新年度予算7議案の審査を予算特別委員会にそれぞれ付託した。

第2日目に、一般質問を行い、5議員が農業行政、人

□減少対策などをとりあげ、町政をたじた。

第3日目を以降に、常任委員会、予算特別委員会分科会を開き、議案を審査した。

最終日に、予算特別委員会の採決後本会議を開き、付託した15議案を原案通り可決し、条例2件を可決した後、閉会中の事務調査を許可して、閉会した。

なお、今期定例会の傍聴者は4人だった。



# 29年度 予 算

## 本当に大丈夫か

# 議会 財政規律を注視

予算特別委員会は、常任委員会を単位とする2分科会で構成され、一般会計など7会計の予算、関係条例を審査した。ここでは総括質疑、分科会での質疑を要約した。



未来につなげる大事な予算

平成29年度各会計予算			
会計別	歳入歳出予算	議決の内容	
一般会計	104億3200万円	全員賛成により可決	
国民健康保険事業特別会計	20億5581万円	賛成多数により可決(反対1)	
下水道事業特別会計	5億2705万円	全員賛成により可決	
農業集落排水事業特別会計	8740万円	全員賛成により可決	
介護保険事業特別会計	19億4087万円	賛成多数により可決(反対1)	
後期高齢者医療特別会計	1億6418万円	賛成多数により可決(反対1)	

企業会計		収入	支出	議決の内容
水道事業会計	収益的	5億 528万円	4億9405万円	全員賛成により可決
	資本的	6740万円	*2億2685万円	

\*資本的収支:不足する1億5944万円は消費税調整額、損益勘定留保資金で補填(ほてん)

## 総括質疑

### 町債の内容を町民に知らせるべきでは

**遠藤** 町債残高は16年度約104億円、27年度約125億円と20億円も増加している。町債は過疎債の活用が多く、16年当時と状況は違うが、その内容を町民に知らせる必要があるのでは。

**町長** 町債の内容についてはは今後しっかりしていきたい。

**遠藤** 32年度までに庁舎建設を行うとしているが、財政面から他公共施設の建設計画を早急に見直すべきでは。

**町長** 公共施設等整備計画の見直しを早急に行いたい。

### 遠藤章一 議員

### 将来的な行政運営の在り方は

**橋本** 施政方針の中で、地方創生のもと地方が人口減少、子育て、若者支援などで過当な競争となり、さらなる競争と納税の返礼品も過熱している。地方自治体の消耗戦となり地方自治の後退を招くとある。同感である。

**町長** 置賜全体での対応が必要である。定住自立圏構想等を研究し連携していきたい。

**橋本** 地方自治体の存在も財政力次第となり、地方自治体も格差社会化することを危惧している。将来的に行政運営をどうしていくのか。

**町長** 橋本 欣一 議員

### 橋本 欣一 議員

### 複合施設整備計画の進捗状況は

**金子** 診療所を核とし小松保育所や福祉センター等、新たに土地を取得し整備を図るとしてきたが。

**町長** ダリヤ園入口に立地する旧太平洋合板跡地を取得し、整備する計画を進めてきたが、このたび土地の取得交渉を白紙とした。今後、再検討していく。

**金子** 梨郷道路や国道287号等、協力者への支援策は。

**町長** 住宅等立ち退き地域整備を余儀なくされた方に対して、住環境整備等極力支援していきたい。

**金子 一郎 議員**

### 金子 一郎 議員

### 普通建設事業費とは

**神村** 予算104億3200万円の全体像が把握できた。その中で、「予算案の概要」と「会計予算書付属資料」において、同一の内容にもかかわらず異なる表記がある。「予算案概要」(投資的経費)と「付属資料」(普通建設事業費)の違いは何か。

**神村 建二 議員**

**町長** 投資的経費は、普通建設事業費と災害復旧費の合計額をいう。災害復旧費は存目計上なので、多くの場合、普通建設事業費と投資的経費は同一額となる。

### 神村 建二 議員

### 政策提言の在り方は

**鈴木** 議会で行っている政策提言が行政側にどう捉えられているか聞く。評価が低い点は改善を促しており、行政側も努力しているが、なかなか評価が上がらない。議会の検証評価が一方的なのではないか。

**町長** 行政側としても、町民との意見交換の場などをつくって、議会が求める政策提言は、さらに町民の声が反映されたものだと思う。検証評価が厳しいということも感じている。議論しあえる場があればと思う。

**鈴木清左衛門 議員**

### 鈴木清左衛門 議員

### 庁舎用地の選定急げ

**佐々木** 庁舎建設は国の補助事業で、32年まで完工しなければならぬ。用地の選定が急務だがその方針はできるだけ計画を前倒しにして、事業を進めていく。用地の選定は本年度中とし、町民に示したい。

**町長** 事前にICT活用による交流事業等を行う。学校、地域の声を聞きながら統合に万全を期したい。

**佐々木 賢一 議員**

### 佐々木 賢一 議員



# 私もひとこと

## 町の子育て支援に拍手

小松地区 神尾 暁子 さん

今年度からの子育て支援による、高校生までの医療費無料化は、我が家にも町内の子どもを育てるご家庭にも大変助かる支援だと思います。

これからも子育てしやすい町・子どもたちがのびのびと育ち、すくすくと元気になる環境が広がる川西町に期待します。



## メディカルタウンへの思い

大塚地区 平 忠 さん

長年待ち続けた「公立置賜総合病院周辺整備基本計画」が示された。置賜地域の中核医療施設を中心に、住宅・商業・公共施設・インフラ等の機能の一体的開発を重点に整備が進むと思う。のどかな自然と調和した賑わいのある、やさしいメディカルタウンができればと思います。



## 待望の新庁舎建設

小松地区 渡部由美子 さん

役場庁舎建設は町報で知りました。私はいつも役場を目にしながら働いているので、町の顔が新しくなるのはうれしくなります。

できればこの場所に建設できれば、いつもと変わらぬ、お客さんとの触れ合いができますと思います。



# 29年度 予算

## 虚空蔵山西線道路改良



交通利便性向上

西回り幹線道路の南側にあたる虚空蔵山西線の整備が進む。八相山線から米沢に至るルートは1420mで、内1080mが川西町分である。昨年度は、一部用地買収、埋蔵文化財の本調査、田面の切り下げを実施。本年度の施工延長は250mを予定。完成年次は平成31年の予定だが、国の社会資本整備総合交付金(補助率3分の2)が修繕や補強に多く支出されており、新規の道路整備だけに予算の確保が難しい。

1億180万円

## 新規

## 防犯灯LED化



省エネにもつながる

町内の防犯灯約1500基を、すべてLEDにする。町が事業者となり10年のリース事業とする予定。プロポーター方式で業者を選定する。LEDは消費電力が少なく、長寿命であることから経費節減につながる。

500万円



計画策定に向け

国は、熊本地震で役場庁舎が使用できなくなったことに鑑み、「市町村役場機能保全事業」を創設した。町ではこの事業に取り組みることとし、本年度は外部委員会設置、先進事例調査を行い、基本構想・計画を策定する。

51万円

## 新規 庁舎整備計画



子育て支援の充実

平成23年度から、中学生までの医療費が無料となっていたが、今年度から高校3年生相当まで(年度内に18歳になる人)を無料化の対象とする。新たに対象となるのは400人。県は小学3年生までを無料化としているが、それ以上の無料化に要する経費は市町村の負担となる。6435万円のうち県からの給付は1699万円。町の負担のうち4730万円は「過疎地域自立促進特別事業債」を充てる。

6435万円

## 新規 高校生までの医療費無料化

# 今年の目玉 ピックアップ

## パークゴルフ場整備



愛好者の期待が膨らむ

ふれあいの丘(小松スキー場付近)にコース、36ホールのパークゴルフ場を整備する。昨年度はコースの造成を行い、全体の進捗率は、28・37%となっている。今年度は芝張りを行い、10月の完成を目指す。芝張り後の養生を経てオープンされるが、30年度以降の管理は、指定管理者制度を適用させる。30年度には日本パークゴルフ協会の公認コース認定を目指す。完成すれば県内最大級のパークゴルフ場となる。

4億6126万円

## 新規 置賜総合病院周辺の開発



置賜総合病院周辺を一体開発

公立置賜総合病院周辺開発の基本計画が策定された。病院の南側約9万7000㎡に商業施設、住宅用地を整備する。概算事業費は約26億5千万円、今年度は、測量、デザイン、設計を行い、平成33年度の完成を目指す。

5585万円



総務文教  
第1分科会

学力向上

読書教育の推進が重要



読書は学力向上の近道 = 遅筆堂文庫

を受け、旧施設建物の解体を行う。また、跡地については利活用を図る。

**問** 庁舎整備計画検討事業の29年度のスケジュールは。

**未発表** 29年度は、先進事例の調査、外部委員会の設置及び各地区座談会を開催し、基本構想を策定する。

**意見** 建設完了まで短い時間での重要事業であるので、庁舎位置の選定について早急に検討を行うこと。

**問** 防犯灯設置事業の内容は。

**住民生** 町内約1500基の防犯灯をLEDに交換する工事を、10年間のリースで行うもので、リース期間中

年度末には報告会を行っている。  
**意見** 不法投棄が繰り返されないよう監視体制を継続すること。

**問** 斎場運営事業の工事内容は。

**住民生** 消防法で規制対象となる地下タンクが設置年数の経過により維持管理対策工事が必要となるため、燃料使用量や維持管理費を検討した結果、地上タンクを設置することにした。なお、既設の地下タンクは、撤去しない。

**問** 消防ポンプ整備事業の内容は。

**総務課長** 平成31年全国女性消防操法大会出場に向けたポンプ整備で、女性が扱いやすく、大会での使用が定められているD-1級軽可搬ポンプを購入し、川西消防署で保管する。

**問** 特色ある学校づくりの推進で学力日本一を目指すのか。

**教育総務課長** 学力向上に向けて読書教育の推進が重要である。「川西町子ども読書活動推進計画」を29年3月中旬に策定する予定であり、

**問** 埋蔵文化財資料展示館を解体するののか。

**生涯学習課長** 埋蔵文化財資料展示館が川西町交流館に移設したこと

産業厚生  
第2分科会

ダリヤ園

インターハイに合わせ開園

**問** 29年度のダリヤ園の運営はどのようなのか。

**産業振興課長** 29年度の開園期間は、南東北インターハイの開催に合わせて7月28日からとし、閉園は11月5日とする。開園期間外は入園無料で利用できることや新遊具のピアーを積極的にを行い、有効利用を図ること。

**問** 子育て支援医療事業で18歳までの医療費を無料化するののか。

**健康福祉課長** 無料化の対象を現在の中学3年生までから18歳到達後の3月31日まで拡大し、制度の周知とシステム改修のため8月1日か

ら実施する。

**問** 健康診断による医療費削減の効果は。

**健康福祉課長** 国民健康保険のデータでは、特定検診受診者と未受診者の生活習慣病治療費に大きな差がでており、

医療費の削減に繋がっている。  
**意見** さらに受診率の向上を図ること。

**問** 女性農業者支援事業の内容は。

**産業振興課長** 28年度は園芸作物や6次産業化、ダリヤなどに取り組ん

**問** 6次産業化の加工所整備は行うののか。

**産業振興課長** 先進地視察やアンケート調査を行いながら、共同利用を前提に整備することを検討中である。

**意見** 需要に応じた適正な支援策を講じること。

**問** 人・農地プラン作成事業の内容は。

**農地林務課長** 組織に対する町単独補助金をエ

リアの規模で傾斜配分して交付する。  
**意見** 人・農地プラン組織は地域で農地集積に向け積極的に活動していることから、より手厚く補助すること。

**問** 虚空蔵山西線の進捗はどうか。

**地域整備課長** 29年度は、施工延長250mの予定である。

**意見** 国の予算配分が厳しい状況であるが、国・県などに強く要望を行い、事業の進捗を図ること。  
**問** 国民健康保険事業特別会計の医療費適正化対策の内容は。

**健康福祉課長** ジェネリック医薬品の使用率は年々増加し現段階で70%を超えており、今後も医療費適正化に努めていく。



# 29年度 予算

**問** 公立置賜川西診療所は、平成12年11月に公立置賜総合病院の開院以来、総合病院のサテライト医療施設として町民の初期医療や慢性期の医療を担い現在に至っている。今後の、川西診療所と健康福祉センターの在り方はどうか。



健康と福祉の充実に向け = 診療所

## 診療所・健康福祉センター 改築の必要性認識

**町長** 川西診療所整備検討委員会を平成26年度に設置し、診療所の在り方や機能等について検討してきた。その報告によれば、①診療所は公立置賜総合病院との連携の中で、在宅医療を含めた総合的な医療を提供すること。②介護、福祉との連携や、地域包括ケアシステムにおける医療分野の中核的役割を担うこと。③町民の健康づくりの協力機関として役割を果たすこと。などの提案を受けた。また、医療と介護の連携を図り在宅医療の充実が求められているが、町内の開業医だけでは、すべての在宅医療を支えるのは困難との報告も受けた。健康福祉センターは、同施設に設置しているが、診療所整備検討委員会の報告書や社会福祉協議会からの要望、未来ビジョン、地域福祉計画等をもとに、総合的に検討している。

**意見** 最優先課題である建設用地の選定について、できる限り早期に結論を示すべきであり、その上で、町民の理解を得ながら計画期間内での完成を目指して事業を推進すること。

# 町長に聞く

分科会の予算審査で、特に政策的な事項を町長に聞いた

## 新庁舎

### 32年度完成目指す

**問** 国は昨年発生した熊本地震で耐震化が未実施の庁舎の建て替えを対象とした「市町村役場機能緊急保全事業」を29年度に創設する。事業年度を32年度までの4年間としているが、本町としての取り組みはどうか。



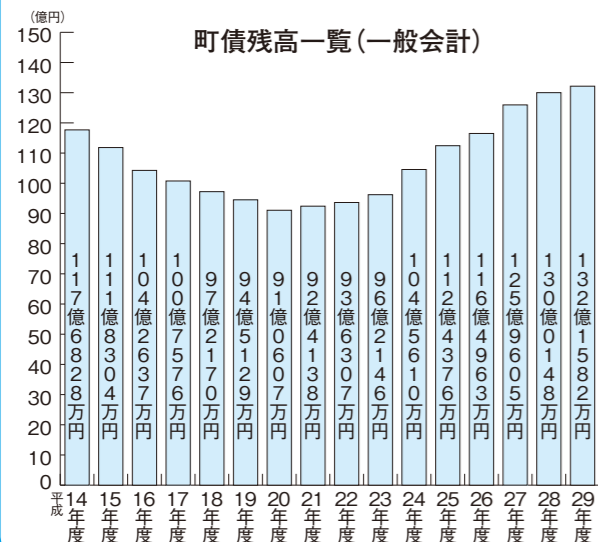
平成32年は新庁舎に

**町長** 28年度に庁内検討委員会を設置し、29年度には、外部委員会の設置や各地区座談会の開催等を通して町民の意見を聞き、早期に基本方針、基本構想の策定を目指す。その後、基本計画の策定、建設場所の確定、基本設計、実施設計に取り組み、31年度から工事に着手し32年度完成の予定。スケジュールはできるだけ前倒しで進めていく必要がある。建設用地は、本町の町有地の状況を踏まえ

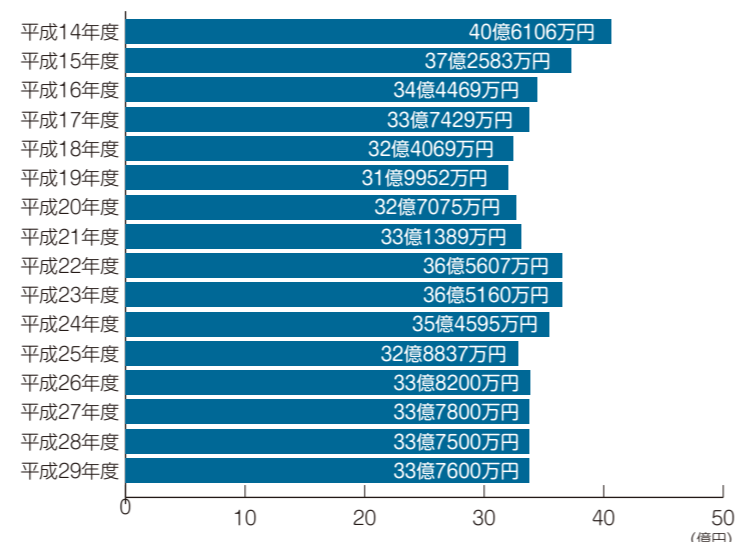
**意見** 財源確保は「市町村役場機能緊急保全事業」の活用とPPP活用も検討し、庁舎建設基金の積み立てを継続し財源確保を図る。また、メデイカルタウン構想の大型事業も計画している。将来の財政負担を見据え、事業の「選択と集中」を図り、有利な補助事業の活用など、財源確保に努める。

### ここが知りたい

#### 町債(借入金残高)の推移



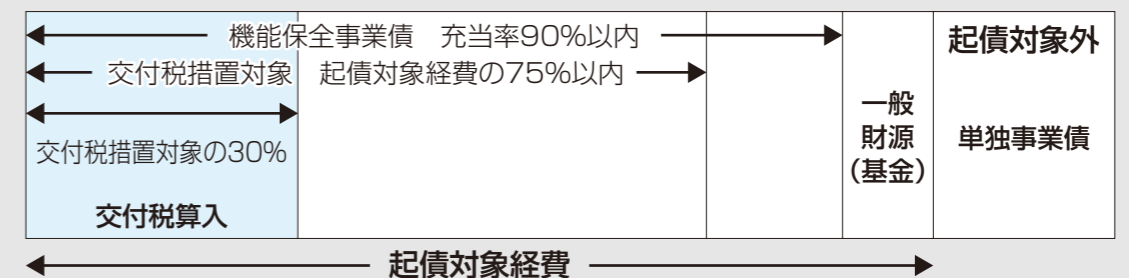
#### 地方交付税の推移(置賜広域病院組合分を除く本町純粋分)



#### 市町村役場機能緊急保全事業

- 対象事業 昭和56年以前に建設され、耐震化未実施の庁舎
- 事業年度 平成32年度まで
- 財政措置 地方債充当率 90%以内  
交付税措置 起債対象経費の75%を上限とし、元利償還金の30%を交付税に算入

ここがポイント





ここが聞きたい！

町政をただす

# 5人の議員が一般質問

定例会第2日目に一般質問が行われ、5人の議員が町政について質問した。

通告順（発言順）に掲載する。

17 <sup>P</sup>	鈴木 幸廣 議員 ① 森のマルシェの現状 ② 職員の労働負荷軽減
18 <sup>P</sup>	伊藤 寿郎 議員 ① 農産品を海外へ売り込め ② 豆のあるまちかわにし ③ 人口減少対策 ④ 空屋適正管理
19 <sup>P</sup>	伊藤 進 議員 ① 農業政策、園芸振興のあり方 ② 体育館の周辺整備は
20 <sup>P</sup>	橋本 欣一 議員 ① 介護保険事業の今後 ② 人口減少対策、移住定住のすすめ方
21 <sup>P</sup>	鈴木清左衛門 議員 ① 観光の拠点づくりの5 ② インフラの整備と展開 ③ 質の高い行政運営の推進

☑ 抜きの数字は掲載された質問。それ以外は紙面の都合により掲載できなかった。

その内容は、議会ホームページの録画中継によって見ることができる。  
(<http://www.town.kawanishi.yamagata.jp>)

一般質問とは

一般質問は、町の行政全般（一般事務）に関し、執行者所見や疑義について質問できるものである。

質問する議員も受ける執行機関も十分な時間が必要なことから通告制とし、事前に質問内容を通告することとしている。本町議会では質問と答弁がかみ合うように、全文通告制がとられている。

また、質問に対する答弁書が作成され、一般質問当日の朝に全議員に配布される。質問時間は、1人につき質問答弁を含め60分以内で完了することとされている。再質問からは、一問一答方式が採用されており、時間内であれば何度でも再質問ができる。

## 「森のマルシェ」1年間の実績は

### 町長 — 所得向上の面で一定の成果

鈴木

町民が期待した「森のマルシェ」が開業し、間もなく1年を迎えようとしている。来店者数や売り上げの実績はどうか。

町長

本年2月までの来店者数は、7万3千人、売り上げは約7千2百万円である。年間を通じれば、売り上げ目標1億4千万円の7割程度になると推測される。売り上げのうち約4千3百万円は、出荷者へ還元されており、所得向上という面では、一定の成果が上っている。

鈴木

イベント開催の情報や案内看板

の設置はどうなっているのか。また、イベント開催の回数は足りているのか。

町長

フェイスブックにより、商品の特微や、こだわりの製造方法などの情報とイベント告知を行っている。案内看板の設置はマルシェ敷地内に2カ所のみで、敷地外には設置していない。集客イベントの開催は今まで4回であり、今後は企画力を高め話題性を持った催しを展開するよう促す。

鈴木

「森のマルシェ」オリジナルのふるさと納税返礼品

町長

返礼品は、米沢切り餅、菓子、宿泊券など、多岐にわたり準備されているが、「森のマルシェ」オリジナルの返礼品は現在のところない。今後具体的な検討を促す。

鈴木

国は、長時間労働や時間外勤務などの慣習を是正するため、働き方改革に積極的な動きをみせているが、本町職員の残業時間やヘルスケア・メンタルケアの現状は。

職員の働き方改革は

町長

平成27年度の時間外勤務の状況は、年間115時間、月平均で約10時間となっている。

鈴木

今後予想される重要事業での、業務量の増加に対する労働負荷の軽減対策は。

町長

公立置賜総合病院周辺整備は平成33年度まで、庁舎整備は平成32年度の完成を目指し、限られた期間に多くの業務量が見込まれる。

両事業とも、庁内プロジェクトチームを設置し、担当部署への業務集中を緩和する。町全体の事務事業を見直し、効率化に努め職員の労働負荷を調整し、着実に事業推進を図る。



鈴木幸廣 議員



「森のマルシェ」話題性を持った催しの展開を



農業振興

農産物 海外へ売り込め

町長ー現地生産も考慮する



伊藤寿郎 議員

**伊藤** 川西町の農産物を海外へ売り込み、農家の所得向上を図る支援、また輸出の際の手続きなどの情報提供の支援を図ってはどうか。

**町長** 本町として取り組むべき最優先課題として、輸出も視野に入れたGAPの取得推進がある。食の安全、リスク低減、労働安全、環境保全及び生態系維持の実践を通して、

食の安全と持続可能な生産管理の実現による国内外から選ばれた産地形成を図ることが必要不可欠である。将来的には輸出を足掛かりとした現地生産等への道筋も考慮しつつ、農家所得向上につながる輸出のあり方について適切な情報の取得と提供に努めたい。

**町長** 「豆のあるまちかわにし」今後の展開

**伊藤** 昨年度の「豆」に関するイベント・催事における宣伝・PR効果は多大であった。さらなる経済効果、今後の展開は。

**町長** ブランド、商品の価値、知名度が高まれば高まるほど、安心安全な品質管理と顧客に対する信頼の確保が重要。新たに「紅大豆」の文字のみの商標登録に向けた取り組みを進め一層の価値観

を高めたい。さらに関連のイベントでは、細心の注意と大胆な発想を持った取り組みを進展させ、豆に限らずコメや米沢牛、アスパラガスや、えだまめの振興につなげたい。

**伊藤** 人口減少対策、少子化克服の観点から幅広い町民各層の意見等を聞く機会や、対外的に発信する取り組み

**町長** 人口減少対策は



大盛況、第2回東京豆の展示会 = 上野桜木あたり

組みが必要と思われる。次世代を担う世代の意見の把握や反映に向け、「子ども議会」・「子ども観光大使」等の計画はあるか。

**その他** 空家適正管理について質問した。

**伊藤** 農水省が新規事業で産地と実需者の一体支援を行う、「野菜生産転換促進事業」を設けた。また、山形県は「園芸大国やまがた」に向け、大規模団地形成の新たな事業を始め、各総合支庁に「園芸団地化推進員」を配置する。園芸振興が進む中で、同僚議員から産地と実需者の取り組みが提案

されているが。農業者と実需者が主体性をもって立ち上げていくことが重要である。町はその情報収集やマッチングなど支援に努めていきたい。

**伊藤** 産業振興課農業グループと6次産業化グループの連携強化による推進体制の充実、山形おきたま農業協同組合、山形県農業技術普及課との密接な連携を図ることだがその方策は。

**町長** 産業振興課内では生産から販売までを一元的に検討する、グループ戦略会議等による横断的な推進

体制を充実させる。山形おきたま農業協同組合とは、園芸振興協議会運営等で連携をより強化。山形県農業技術普及課とは、普及重点品目の確認、GAPの取得推進、エコファーマー制度推進、重点品目プロジェクト会議で連携を図る。

議会の果たす役割は、ますます重要性を増すものと認識している。事務局の専任人員増による体制強化は財政的に困難。専門的知識の向上、農業者への適切な対応など、必要なスキルを高めるよう努める。

**伊藤** 農水省「食料・農業・農村政策審議会食料部会」で、農業再生協議会を軸にした現場の主体的な取り組みに行政の関与を求め意見が出された。また、川西町農業振興マスタープランに添った事業遂行などを含め、農業再生協議会の事務局体制をあらゆる面から強化する必要があるのではないか。

**伊藤** 膨大な事務処理に見合う財政支援措置を求めるよう望む。

**町長** 農村環境改善センター周辺の除雪による通路の確保、町道整備も含め、利用者が安全に通行できるように方法を検討していく。



周年園芸を摸索

**町長** 平成30年以降、地域農業再生協

**伊藤** 町民総合体育館の耐震検査実施後の整備計画は。冬場の体育館周辺駐車場及び移動経路を早急に改善すべきではないか。

**町長** 農村環境改善センター周辺の除雪による通路の確保、町道整備も含め、利用者が安全に通行できるように方法を検討していく。

国が産地 実需者を一体支援、町は

町長ー情報収集・マッチングなどの支援



伊藤進 議員

**町長** 平成30年以降、地域農業再生協

**町長** 農村環境改善センター周辺の除雪による通路の確保、町道整備も含め、利用者が安全に通行できるように方法を検討していく。



# ランドマークをつくれ

## 町長 — 「選択と集中」の中で検討する

**鈴木** 法人格を持つDMO（観光物件、自然、食、芸術、芸能、風習など当該地域にある観光資源に精通し地域と協同して観光地域づくりを行う法人）を川西町観光協会に導入すべきではないか。森のマルシェ脇にそれなりの構え、例えばアートされたプレハブを設置し、観光協会を置き、脇に巨大な牛の「米沢牛の里はここ」と笑顔の子牛モニュメントを置けば、写真スポットが出来上がる。そこが観光の拠点としてのランドマークとなる。

**町長** 牛のモニュメントは置賜管内のあちらこちらに見られるので本町にもほしいと思っていた。「選択と集中」の中で検討する。

**鈴木** PPP/PFI（民間資金などの活用）をどう施設整備

備において活用するの  
かについて聞く。これは民間が公共サービスの提供に参画する手法で、民間手法や民間のノウハウを活用し効率化やサービスの向上を目指す。

平成11年から26年までのPFI導入実績は、おおよそ4兆5000億円の事業規模にのぼり、約8600億円のVFMで、地方自治体の財政健全化に寄与しているところがある。

本町においてはこの方式をどう考えているのかを聞く。また新庁舎建設にあたっての有

利な資金活用についても聞く。

**町長** メディカルタウン構想や公共施設の維持管理、更新などに関する財源の確保が課題となっている。PPP/PFIなどの有利な財源確保や整備手法を検討していく。庁舎の借入金も機能

保全事業債となるが、過疎債など他の起債との併用は認められない。

**その他  
の質問** 「政策情報ポータル」および、「質の高い行政経営の推進」では「ICT活用の進捗状況」と「労働負担と事業の進め方」を質問した。



鈴木清左衛門 議員



マレーシア・ランカウイ島のランドマーク



いきいきサロン(介護予防の充実) = にここ広場(犬川)

**橋本** この4月から要支援者のホームヘルプとデイサービス報酬や人員基準を切り下げたサービスやボランティア中心のサービス提供を行う介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）に移行する。

今までは医師などの専門家の意見を入れて介護認定をしていたが、今後は軽度者を中心に

チェックリストによる判定になる。要介護認定申請を抑制し、介護保険外しにつながらないか。

**町長** 包括支援センター窓口で十分な説明を行い、理解と納得の上チェックリストを記入いただく。要介護申請を希望すれば受け付ける。申請を抑制するものではない。

**橋本** 軽度者には機能向上プログラム

人口減少対策は

**橋本** 移住定住の促進が人口増加につながるとして地域づくり協力隊の活動をサポートしてきている。一昨年から農業研修を受け入れ、農業者としての定着を期待している。このように、特定の目的、職種で移住定

住を促進したらどうか。また、募集から定住まですべてを世話する専任の「移住定住コーディネーター」を配置してはどうか。

**町長** 移住に関わる住居、仕事などの情報集約、支援策の調査研究とその創設、体制づくり、相談窓口の一元化など受け入れ環境の整備について充実するため「集落定住支援員」を配置し受け皿づくりを進めていく。

移住定住を促進するためには、地域の強みを生かし、テーマを絞り込み、就業・起業につなぐサポート体制を整え情報発信することが重要であると考えている。本町の魅力を生かし移住定住促進のため条件を整えたい。

**その他  
の質問** 町内の雇用情勢について質問した。

## 要支援者のサービスはどうなる

### 町長 — 総合事業の展開でカバーは十分



橋本欣一 議員



# 平成28年度各会計補正予算

会計別	歳入歳出予算	議決の内容
一般会計(第7号)	114億8251万円 (7367万円を増額補正)	全員賛成により可決
下水道特別会計(第5号)	5億5892万円 (1703万円を減額補正)	全員賛成により可決
後期高齢者医療特別会計(第2号)	1億5764万円 (124万円を増額補正)	全員賛成により可決

## 平成28年度一般会計補正予算(第7号)の主な内容

(歳出)	
広域病院運営事業 負担金	4730万円
ふるさとづくり基金管理事業 報償費	1250万円
ふるさとづくり基金管理事業 積立金	2500万円
冬季交通確保事業 委託金	3050万円
担い手確保・経営強化支援事業 補助金	▲5676万円
(歳入)	
特別交付税	5000万円
ふるさとづくり寄付金	2500万円
財政調整基金繰入金	5724万円
担い手確保・経営強化支援事業費県補助金	▲5676万円



ふるさとづくり寄付金、交流事業に活用

# 28年度 補正予算

感謝！大きな伸び

ふるさと納税増額

平成28年度一般会計予算他2件の補正予算が審議された。特に大きな補正は、ふるさとづくり寄付金(ふるさと納税)の大幅な増加により、積立金、返礼品ともに増額を行った。

### 人気の返礼品

返礼品は、メード・イン・川西にこだわった米沢牛をはじめ、コメや地酒、ようかん、みそ餅、置賜農業高校生が育てた山形地鶏もその一つ。三菱鉛筆の文具セットや、ゴルフ場のプレー券も川西ならではのもの。

寄付額に応じて返礼品の質や量を選択できるのも魅力の一つだ。10万円以上を寄付すると、A5ランクの米沢牛や超減農薬米、純米大吟醸の一升瓶など12品から一つ選べる。浴浴センターまどかで使える「まどか遊」

### 冬季交通確保増額

昨年の降雪量は少なかったが、今年は1月に入り突然の大雪となった。このため、除雪委託料等を3050万円増額補正することにした。

申請件数  
昨年比 4.8倍  
寄付金額  
昨年比 9.5倍

## ふるさと納税 過去5年間の推移

	件数	寄付金額
平成24年度	16	74万6000円
平成25年度	186	282万8346円
平成26年度	541	661万9000円
平成27年度	396	574万1000円
平成28年度 (平成29年1月末)	1910	5491万8000円

湯券」は入浴のほか、施設内のレストランでの食事や宿泊にも利用できる。日本一の規模を誇る川西ダリヤ園に隣接し、29年度完成予定のパークゴルフ場もあり、観光しながらゴルフも楽しみ最後に疲れた体を温泉で癒せる

返礼品はイチオシである。返礼品のベスト3は、①米沢牛・すき焼き用(350g) ②米沢牛・焼肉用(1kg) ③米沢牛・赤身ステーキ(100g×2) となっている。なお、総務省は過熱する返礼品競争に歯止めをかけるため、寄付額に対する返礼品の上限を3割以下とする対策を発表した。

## 主な質疑

**問** バス路線は町内に一路線しかないが、路線維持の状況は。

**答** バス路線維持対策事業は、小松から米沢間の乗合バス(1日3往復)の運行に対し、年度末に赤字相当額を補填(ぼてん)、補助を行っている。

**意** 当該路線は赤字が継続しているため、年度末あたり243万円を増額補正する。

利用効果の拡大及び路線の必要

この結果、除雪委託料は1億4500万円となる。

### 担い手確保減額

国の補正予算をもとに、次世代農業の担い手の育成・確保に向けた農業施設や農業機械

の整備を支援する事業で12月に予算計上された。

その時点では、3法人・3個人からの申請額を計上していたが、田植機8条1台と直播機1台分の計204万円の補助となり、5676万円を減額した。

性について今後検討していくこと。

**問** 教育・保育施設給付事業の減額補正の要因はなにか。

**答** 子ども・子育て支援制度の初年度であったため、入所見込み人数、公定価格に基づく給付の積み上げ、各加算の認定等による所要額の見込みが過大であったため、国へ354万円、県へ177万円、計531万円を返還するものである。



税条例の改正

軽自動車グリーン化特例延長

地方税法一部改正を受け、町税条例、国民健康保険税条例を改正する。この改正により軽自動車のグリーン化特例が1年延長された。



環境に優しい車社会

住宅借入金控除33年まで延長

①特定非営利活動促進法の改正に伴う条文整備。

②住宅借入金等特別税額控除の適用を2年間延長し、平成33年までとする。

③外国居住者等所得相互免除法改正に伴い、台湾の金融機関等から得る利子、配当に係る住民税について、申告分離課税とする特例を設ける。

消費税導入時期を延期

④法人税割の税率改定期が、消費税導入時期の延期により、平成

31年10月1日に変更されたことに伴う条文整備

⑤軽自動車税の環境性能割導入時期が、平成31年10月1日に変更されたことに伴う条文整備。

⑥軽自動車税のグリーン化特例の適用期間を1年間延長し、平成29年度までとする。

国民健康保険税条例の改正

町民税で申告分離課税する利子、配当に係る所得の額を、国民健康保険税の所得割額算定および軽減判定に用いる総所得金額に含める改正。

全員賛成により可決

表紙の写真



思い出の自撮り

小松小学校の卒業式の1コマです。中学校の制服に身を包むと、昨日までの小学生にはとても見えません。

いまどきは、スマホでの自撮りでの卒業記念写真です。制服姿にランドセルというアンバランスが小学校最後の記念となりました。仲間との別れもありますが、むしろ、新しい出会いに期待をふくらませているのでしよう。

ランドセルに思い出や希望をのせた寄せ書きをしながら笑顔での旅立ちです。心から祝福を送ります。

\*グリーン化特例 環境に配慮した軽自動車を購入した場合、平成29年度に支払うべき軽自動車税を減税する。

消費税引き上げ延期

介護保険料引き続き軽減



医療と介護の連携を図る

「第一段階」の負担軽減

介護保険条例の改正は、消費税の引き上げが延期されたことで、平成29年度分もこれまでと同様に、第一段階の者への負担軽減を図るもの。

内容は、平成29年度の第1号被保険者の保険料を平成27年度及び

平成28年度と同様に軽減するもの。

第1号者の保険料

【軽減前の保険料】 3万2700円 (基準額6万4800円の50%の額)

【軽減後の保険料】 2万9160円 (基準額6万4800円の45%の額)

全員賛成により可決

監査委員報酬引き上げ

監査委員報酬を引き上げる。

識見を有する者は月額3万円から3万2500円、議員選出は月額1万8500円から2万円に改める。

全員賛成により可決

町職員の介護・育児休業見直し

町職員の勤務時間、休暇に関する条例を改正するもの。

①育児を行う職員の夜間勤務及び時間外勤務の制限の対象となる子の範囲に、特別養子縁組の監護期間中の子、養子縁組里親に委託されている子等を新たに追加。

②介護休暇を、3回まで分割して取得可能。通算して6カ月以内。③介護のため、1日につき2時間の範囲内で

置賜地方の監査委員報酬(年額)

	識見を有する者	議員選出
川西町	39万円	24万円
高島町	96万円	30万円
白鷹町	33万1千円	16万円
小国町	32万円	15万円
飯豊町	30万円	15万円

勤務しないことができず介護時間を新設。

町職員の育児休業に関する条例に、特別養子縁組の監護期間中の子、養子縁組里親に委託されている子等を新たに追加する。

全員賛成により可決

介護施設 看護師兼務

地域指定密着型サ―ビス事業の看護師、准看護師の員数規定を省令改正に伴い見直すもの。

全員賛成により可決

全員賛成により可決

市町村退職手当 組合規約を変更

構成団体である置賜広域病院組合が「置賜広域病院企業団」に変更となるため、規約を改正するもの。

全員賛成により可決



# 人事

## 新農業委員任命に同意

# 新制度 農地集積など新たな業務

農業委員会法が改正され、公選制から市町村長の任命制に変更され、新たに10人の委員が議会の同意を得て任命された。必須業務として、農地等の利用の最適化が位置づけられた。



任命された農業委員の皆さん



写真上段

写真下段

### 農業委員会委員任命に同意

	氏名	住所	賛否
1	大沼 藤一	川西町大字西大塚	全員賛成により同意
2	黒澤 一利	川西町大字下小松	全員賛成により同意
3	後藤 満良	川西町大字上小松	全員賛成により同意
4	佐々木 一宏	川西町大字上奥田	全員賛成により同意
5	鈴木 秀男	川西町大字苅	全員賛成により同意
6	高橋 孝博	川西町大字中小松	全員賛成により同意
7	高橋 睦子	川西町大字吉田	全員賛成により同意
8	新野 勝廣	川西町大字吉田	全員賛成により同意
9	新野 庄右工門	川西町大字玉庭	全員賛成により同意
10	船山 マサエ	川西町大字下小松	全員賛成により同意

### 人権擁護委員の諮問に同意

	氏名	住所	賛否
1	平 善昭	川西町大字洲島	全員賛成により同意
2	大木 善子	川西町大字掘金	全員賛成により同意

### 固定資産評価委員会委員の任命に同意

	氏名	住所	賛否
1	齋藤 幸夫	川西町大字苅	全員賛成により同意

## 3月定例会の議決状況

議会基本条例の規定により賛否の分かれたもののみ、各議員の議案に対する賛否状況を報告する。

議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
議員名	伊藤 寿郎	伊藤 進	鈴木 幸廣	鈴木清左衛門	神村 建二	橋本 欣一	遠藤 章一	齊藤 智志	淀 秀夫	齋藤 修一	高梨 勇吉	金子 一郎	佐々木賢一	高橋 照夫	加藤 俊一
議第5号	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議第8号	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議第9号	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○

町提案31議案、議員発議1議案で、上記以外は出席者全員賛成。  
○は賛成、×は反対 議長は賛否に加わらない。

### 議長交際費(議会活性化の一環として公開)

平成28年10月から平成29年3月まで

月	件数	金額	内容	月	件数	金額	内容
10月	2	5,172	第71回国体ホッケー競技参加激励会他	2月	2	10,000	置賜地区行政懇談会懇親会他
11月	5	32,368	東京川西会他	3月	1	8,000	米沢牛銘柄推進協議会祝賀会
12月	5	29,000	川西町消防団幹部会 農業委員会他	下半期合計	17	94,540	
1月	2	10,000	川西町建設業協会新年会他				

### 広報モニターからひとこと⑦

東沢 齋藤 亨さん

川西町に望むこと  
議会広報モニターの依頼を受けてから、必ず傍聴に行きたいと思いましたが、本人や家族が笑顔あふれる生活を送れるように、私が体験したこと、感じたことなどを伝えていきたくて、川西町の未来にかかわる多くの議題が議論されていることを改めて実感しました。

私は、病気の子どもを持つ親として医療や障害者福祉に対して特に興味を持つようになりました。医療的ケアが必要な子どもを育てていくには、必要な制度や施設が、置賜地区全域に足りていないのが実情です。

川西町には子育て医療証があり、中学3年生まで医療費がかかります。とてもありがたいことですが、医療的ケアが必要な子どもがどの幼児施設・小学校に入れるのか不安があります。

新生児医療の発達により増えていくことが予想される医療的ケア児ですが、本人や家族が笑顔あふれる生活を送れるように、私が体験したこと、感じたことなどを伝えていきたくて、川西町のさらなる理解と支援を期待しています。



# 特集

## 議会活性化

# 予算特別委員会を常設

## ここが違う川西町議会

# 第1回

## 予算特別委員会の常設化

川西町議会は、議会活性化の取り組みを継続して行っており、平成26年度に全国町村議会議長会から特別表彰を受けている。これから特集として数回にわたり、その取り組みを紹介する。第1回は、本町議会独自の「予算特別委員会の常設化」である。



町民のため徹底した審査を行う = 予算特別委員会

## ここが違う 川西町議会活性化 今後の掲載予定

第1回 予算特別委員会の常設化
第2回 政策提言と検証評価
第3回 政務活動費の領収書公開
第4回 情報の公開
第5回 議会基本条例
第6回 条例の議員発議

町長と議会の関係は二元代表制といわれている。町民に選ばれた町長を、同じ町民から選ばれた議員が監視牽制を行うのである。

翌年度の予算が審議され、決算は9月定例会で前年度の決算が審議される。

審議されたが、予算特別委員会のように時間をかけての審査ができなかった。

である。本町議会では、互いに傍聴できるように、同時に開催することなく、別々の日程にしている。また、委員会の質疑が終了した時点で傍聴している他委員会所属の議員が質疑を行えるようにしている。

町長は大きな権限を有している。たとえば予算の編成権、それを執行する財政権は町長に専属している。しかし、予算の議決権は議会のみが有する権限であり、議決なくしては確定せず、執行できない。

議会では予算の重要性に鑑み、慎重に質疑を行うこととし、特別委員会（委員会を単位とする分科会）で審査することになっている。しかし、年度途中に新たに予算化しなければならぬこともあり、その場合は補正予算として審議される。以前は3月以外の定例会、臨時会は本会議主義で

所管事務を調査する常任委員会、「総務文教」と「産業厚生」

との政策提言を行った。それを具現化するため議員発議で「読書推進条例」を制定する準備を進めてきた。また、教育委員会では「川西町子ども読書活動推進計画」を策定し、読書活動推進の環境整備が行われてきている。

### 2委員会(分科会)は別々に開催

所管事務を調査する常任委員会、「総務文教」と「産業厚生」

の意見交換を積み上げ、「読書推進条例」の制定を目指す。

## 総務文教常任委員会



プラザの「本の木」

## 井上先生の遺志を継承

# 「読書推進条例」の制定を

2月6日、遅筆堂文庫の職員との意見交換会を行った。

の中心より人類の遺産であり先人の知恵の結晶でもある萬巻の書物を介して、宇宙の森羅萬象を観察し、人情の機微を察知して、個人の自由と共同体の幸福なる共生を追求しよう」と定めている。

### 「読書推進条例」の制定を

本町議会では、「学力日本一を目指す」

の政策提言を行った。それを具現化するため議員発議で「読書推進条例」を制定する準備を進めてきた。また、教育委員会では「川西町子ども読書活動推進計画」を策定し、読書活動推進の環境整備が行われてきている。

# 委員会 レポート

## 産業厚生常任委員会



平洲農園、事業開始

## 準備着々

# ハウスの大きさに 驚き

2月7日、尾長島団地内に誘致された企業と、平洲農園トマトハウスの視察を行った。精密電子部品の組み立て工場では、レーザー加工機を使いさまざまな素材を加工できる技術を目の当たりにした。金属メッキ会社では、従来のメッキの印象を変えるラインでの工程と排水環境対策を視察した。

いずれの企業も協調融資などによる産業立地促進のための商工振興資金を活用し、増築、増床を行い新分野に進出する予定である。持続的な企業の発展に向け、いずれ地元雇用につなげていきたいとのことだった。

### 13棟のトマトハウス

平洲農園トマトハウスは、5・6ヘクタール

の水田に、間口14メートル、奥行き120メートルのハウスが13棟建設された。内部はほぼ整地され養液設備の設置が進んでいた。トマトハウスには、国庫事業の強い農業づくり交付金が交付され事業費の2分の1が補助された。高度な農業技術の導入で、農業の活性化と雇用の創出を図っていくとしている。



平成29年度予算の概要や庁舎整備など、今後の川西町の重要な施策、事業について町長からの事前説明および、置賜広域行政事務組合臨時会・定例会報告、置賜広域病院組合議会定例会報告が行われた。

2月17日  
全員協議会

- 1、平成29年度予算の概要  
主要プロジェクトに掲げた施策を着実に推進する事業、政策的課題、重要事業を最大限盛り込んだ予算の内示
- 2、川西町庁舎整備計画  
画期内検討会議の設置  
総務省が「市町村役

場機能緊急保全事業」を創設。事業年度は平成32年まで。

3、公立置賜総合病院

周辺整備基本計画・実施計画の策定状況

置賜地域の中核医療施設を中心に発展させる都市的機能の整備。

4、平成29年度以降の介護保険事業

地域の特性に応じて、医療・介護・予防・住

まい・生活支援が一体的に提供される、地域包括ケアシステムの構築。

5、川西町農業振興マスタープラン(案)

「かわにし未来ビジョン」と連動し、本町農業施策を最大限活用した具体的施策を定め、長期戦略を実現する。

重要事業目白押し

3月21日  
全員協議会

- 1、町公共施設等総合管理計画の進捗状況
- (1)大規模修繕6施設  
(2)施設の更新2施設  
(3)計画の変更―庁舎整備事業推進。
- 2、川西町生涯活躍のまち基本構想・基本計画(案)
- 「生涯住んでよし」

と思えるまちを目指す。

3、公立置賜総合病院

周辺整備基本計画・実施計画(案)

置賜地域の中核医療、都市機能を有する「メデイカルタウン」の形成。

4、小学校開校準備委員会の検討状況について

開校準備委員会設置。平成30年4月開校に向

休日議会の開催を

議会広報モニターを  
と声をかけていただいた時には、誌面づくりの参考のためのアンケートなど、ちよつと荷が重いなど感じました。これまで議会だよりを  
「議会だより」の名のつくだけで  
「議会だより」と名をつくだけで、  
「議会だより」と名をつくだけで、  
「議会だより」と名をつくだけで、

広報モニターから  
ひとこと⑧  
玉庭 藤本 亜希さん



敬遠していただきました。ところが、いざ手に取ると、読みやすく、難しいと思っていた内容についても、考えるようになりました。これまで与えられていた福祉サービス等について深く考えたことなどなく、当たり前に得られるものだと思ってきましたが、議会で何度も議論され、私たちに届いているのだと改めて理解しました。議会傍聴に行ってみたいと思います。一般質問には私たちの生活に直結する事柄も多いようです。生で聞いてみたいと思ったのですが、平日は仕事があり、一度も足を運ばませんでした。除雪や交通、子育て環境の問題等、知りたいことがたくさんあります。休日に議会があれば行けますので、是非ご検討ください。

介護保険  
要支援サービス  
町の「総合事業」に移行

平成26年3月議会の一般質問  
介護保険について  
「要支援者が介護保険から外される」

第6期の介護保険事業計画の最終年の状況を追跡。

平成29年度から、介護保険の要支援サービスのホームヘルプ(訪問介護)やデイサービス(通所介護)が、市町村が運営する総合事業に移される。川西町が運営するため、地域の実情に合わせた、柔軟性のあるサービスができる。また、地域住民のボランティアで自宅、地域での生活の支援をしていく。

を肩代わりさせるものではないかといわれている。

地域包括ケアシステムを構築

ホームヘルプ(訪問型)関係では、食事、清拭、入浴、排せつ、通院外出介護などの身体介護、掃除や、調理、買い物などの生活援助があり、事業所にサービスを委託する。対象者は約140人。  
デイサービス(通所型)では、健康チェック、食事、入浴など、従来のサービスとなる。ほかに、どちらも、管理栄養士、歯科衛生士、接骨士など、専門家の指導による体力や



認知症カフェ = 茶処 そよ風(そよ風の森)

生活機能維持の指導を行う。対象者は約30人。  
通所型では、住民主体の自主的な通いの場を設け、ボランティアによる、簡単な体操や趣味、交流の場を設ける。また、増えつつある認知症対策にも、専門の認知症地域支援推進員を置き、医療と介護の連携を図り、患者とその家族を支援する事業も行う。



# 防災

地震をはじめ、大雪、集中豪雨等の相次ぐ自然災害や、大規模火災等の特殊災害、新型インフルエンザ等健康危機、そして武力攻撃事態などの万が一に備え、議員の災害時行動マニュアルを作成した。

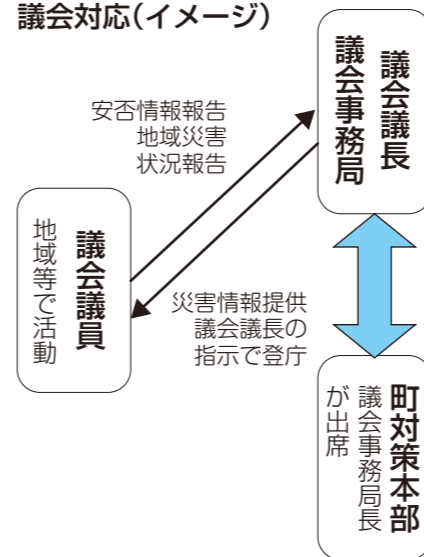


災害時における適切な行動を

## 議員の行動指針

# 災害時 行動マニュアルを作成

対策本部が設置された場合の 議会対応(イメージ)



平成23年3月11日東日本大震災当日は、定例会中で予算特別委員会の分科会が開会されていた。激しい揺れに、屋外に避難するのが精一杯であった。

昨年、熊本地震があり、災害時の議会の在り方や議員の行動について、改めて考えさせられたことから、議会運営委員会にて「災害時行動マニュアル」の必要性が議論された。

議会運営委員会では、先進地視察調査を行うこととし、平成26年2月の豪雪を教訓に、災害時行動マニュアルを策定している長野県軽井沢町議会を訪ねた。

当時の生々しい被災状況をうかがい、災害時の行動指針の必要性を痛感した。

2月の全員協議会で成案とし、定例会中の全員協議会で「町議会災害時行動マニュアル」

「地域の一員として協力マニュアル」を作成した。

マニュアルでは、発生した場合、議員自身の安否、連絡先を明らかにすることや、地域の被災者の安全確保、避難誘導に地域の一員として協力することになっている。

また、状況に応じて議会の「災害対策会議」を開催するとしている。

## 川西町議会 災害時行動マニュアル(抜粋)

- 1 目的** 災害発生時に、議会として行政側と連携を図り、相互の情報交換、迅速に住民の救援に努めるための指針として定めるもの
- 2 行動マニュアル**
  - ①連絡体制の確立  
議員自身の安否、連絡先を報告、常に居所を明らかに
  - ②地域で協力  
地域の被災者の安全確保、避難誘導に地域の一員として協力
  - ③情報の提供  
事務局長は対策本部に出席し情報収集に努め、議長の指示で議員に情報提供を行う
  - ④対策会議の設置  
議長は状況に応じ、対策会議を開催し、被災状況の報告や、今後の対応を協議する

# 表彰

# 7年連続入賞 議会広報全国コンクール



優良賞を受賞した第125号

議会だより第125号が、第31回町議会広報コンクールにおいて7年連続で入賞した。昨年、一昨年の2年連続での最優秀賞のあとだけに、3年連続となるか期待もあったが、全体での5位入賞となった。



広報広聴委員、愛される議会だよりを目指します

第31回広報コンクールは平成の大合併以降最多の291紙の応募があった。1次審査で30紙に絞り、2次審査において上位10紙と、表紙写真賞、企画構成デザイン部門などの奨励賞を決定する。

総評によれば、川西町議会だよりが、3年連続の最優秀賞なるのが注目の的となった。審査会では「かわにし議会だより」の順位付けが審査委員の頭を悩ませた。

全体の5位の優良賞となったが、最優秀賞を受賞した昨年度以上のクオリティで、上位がそれ以上の出来である。



## 置賜町村議会議長会表彰

トップ5は常連組であるが、新たな挑戦や試みを忘れない探求心があり、現状に満足せずアンテナを張りながら作成している点で評価が高いとある。

ちなみに、今回の最優秀賞は「りふ議会だより」(宮城県)、2位は「議会だよりかねがさき」(岩手県)、3位

は「おち町議会だより」(高知県)であった。

本町議会だよりに対する個別の講評では、苦言や注文にも躊躇しない点に好感、メリハリを生かした紙面が視覚的效果を発揮、政策検証企画が議会機能を発揮、似たレイアウトパターンが多いのでアクセントを、などの点が挙げられた。

置賜町村議会議長会表彰  
置賜町村議会議長会  
会長(会長 遠藤幸一、白鷹町議会議長)より、高橋昭夫副議長が在職17年表彰を受賞しました。おめでとうございます。

## まちの未来が見える(3月定例会の傍聴者は4人)

# 議会傍聴においでください

定例会本会議、予算特別委員会はNCV、インターネットで生中継  
議会フェイスブックもご覧ください

次の定例会は6月



# 町民の声

## 文化や人が交わる地域づくりを

小松地区にお住いの、金子真紀子さんに、子育てや、町に望むことなどをお聞きました。

### プロフィール

かねこまきこ  
金子真紀子

川西町上小松在住  
白鷹町出身  
夫、夫の両親、長男、二男の  
6人家族  
趣味は映画鑑賞



#### 川西町に住んで

川西町に嫁いで14年になります。最初の冬は雪の多さに驚きました。実家の方も雪は降りますが、ひと冬に屋根の雪下ろしを3回も…。でも、子どもが生まれてからはその雪も楽しもうと思えました。今年も2人の息子は三本松スキー場でスノーボードを精一杯楽しみました。私もヘトヘトの息子たちを見て満足しています。

#### わが町の自慢

私は、この規模の町でたくさんさんの文化イベントが行われていることは大きな自慢だと思っています。井上ひさし氏の出身地ということもあり、演劇の鑑賞会が多いこともさること



おばあちゃん、2人の息子と

とながら、演劇や音楽を自ら楽しむ個性的な人たちがいることも町を楽しくさせていると感じます。手の届くところに高い文化が息づいていて、わが子にもそういう感性が生まれればと願っています。

#### 多くの人と関わって

私は、子育てはたくさんさんの手が加わるという化学反応が起こると思っています。小松では友だちのお母さんやご近所の方が子ど

もに気軽に声をかけてくださいます。また、家業が商売ということもあり、店や工場の人お客様も子どものことを気にかけてくださって本当にありがたいと思います。たくさんの人に見守っていただいているので、わが子には生まれた所への愛着が育まれていると確信しています。

これからも町民が誇れる、文化や人が交わり、広がる地域づくりを期待しています。

### 編集の後で

▼編集態勢が変わって早2年がたち、次号からは新たな編集委員となる。4年任期の半期目で各常任委員会の所属替えが行われることに伴うもの▼コンクール連続入賞とはいえず、議会の情報をより分かりやすく町民に伝えることが一番の役割である▼現状に満足せず、講評のように工夫を重ねていきたいと思う。(はしもと)

- |            |        |
|------------|--------|
| 発行責任者      | 加藤 俊一  |
| 委員長        | 佐々木賢一  |
| 副委員長       | 橋本 欣一  |
| 委員         | 鈴木清左衛門 |
| 同          | 鈴木 幸廣  |
| 同          | 伊藤 進   |
| 同          | 伊藤 寿郎  |
| アドバイザー(文章) | 金子 勤   |
| 同          | 平田 和雄  |
| アドバイザー(写真) | 青木 督平  |
| 同          | 鴨 源一   |
| 同          | 齋藤 史郎  |